

地域懇談会実施報告書

自治会名	白塩町自治会
開催日	平成 22 年 4 月 9 日 (金)
時間	19:00 ~ 20:55
開催場所	白塩町公民館
参加人数	35 人
懇談内容	別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

街路樹について

都市計画道路の見直しについて

対応

後日文書で回答



行政側参加者氏名

庶務課市民活動支援係 市河 千春

飯島 秀美

庶務課秘書係

小澤 誠一

記録者氏名

庶務課市民活動支援係 飯島 秀美

白塩町自治会地域懇談会会議録

平成22年4月9日 19:00～

1 開会

2 自治会長あいさつ

3 市長あいさつ

年度始めのお忙しい時期に地域懇談会を開催いただき感謝申し上げます。地域懇談会では市の取り組みの説明と、市が直面している課題や地域の皆さんが抱えている課題についての意見交換をさせていただいている。白塩町では「塩満会」等の地域に根付いた事業を展開されていることに厚く御礼申し上げます。

市民参加と協働のまちづくりの基本方針を昨年3月にまとめた。作成には市民の方にも参加してもらい、本日、みなさんにはダイジェスト版を資料として配布した。参加と協働の理念を示し、「市民と市民による協働」、「市民と行政による協働」といった協働を2本の柱として捉え、行政ばかりでなく地域の中でも解決できるように、また行政における応援の仕組みづくりを目的として作成した。

今年4月1日市役所別棟に「市民活動サポートセンター」を、地域に密着した自治会活動と市の課題を横断的に取り組んでいる市民団体を支援するため、また、それぞれの活動の橋渡しの役割を担うために開設した。開設以来、多くの皆さんにお越しいただいている。サポートセンターがその機能を発揮できるまでには、まだ時間がかかるが、長い目で見ていただきたい。

当面の市政の報告をする前に、お詫びを申し上げなくてはならないことがある。昨年11月に下水道使用料の未登録が発覚した。調査の結果、平成9年から15年頃にかけて、ちょうど市の下水道整備が始まった時期に、公共下水道への接続の際、事務処理にミスがあり、4,000件の登録の内47件が未登録のまま供用が開始され、使用料請求が漏れてしまっていた。そのうち6件は無届のまま使用されていたものであり、残りの40件は行政側のミスにより請求に漏れがあった。請求漏れのあった使用料について、該当の方にはお詫びに伺いほとんどの方からは支払いについての了承をいただいている。しかし、地方自治法の規定により5年を経過して時効の成立した使用料については請求できないことになっている。正当な支払いをされた方との不均衡が生じてしまった。懲罰委員会で担当職員の責任を究明し、市長等理事者を含め、処分を行った。今後、このような事故を防ぎ、信頼の回復に努めてまいりたい。平成15年以降の新たなミスは発生していないが、下水道料金だけでなく、市税や他の使用料についても点検し、管理体制を充実させていく。市民の皆さんにもお気づきの問題点があればご指摘をお願いしたい。

大町病院には現在常勤の医師19人が勤務しており、昨年度は、その内4人が内科の医師であった。昨年のものであるが、北原先生が定年を迎えられ、今年より非常勤医師として勤務

いただくことになり、もう一人の医師も辞意を示されており、このままでは内科の常勤医が2人になってしまうという事態になっていた。内科は病院の中核を成す診療科であり、この状況を苦慮し、懸命に医師探しを行ってきた。再三、信州大学にも医師の派遣をお願いしてきていた。毎年、信州大学医学部を卒業する80人のうち、研修制度が変わり、大都市の大病院に高度な医療の研修に行ってしまうため、信州大学には半数ほどしか医師が残らないといわれている。

大北地域の医療を守るため、地域医療の中核を担う大町病院への医師確保のためということで、村井県知事をお願いし、医師の派遣のお願いに同行していただいた。結果、この4月より信州大学から2人の医師を派遣していただける事になった。また、辞意を示されていた医師も、何とか残留していただけることになった。さらに、県からも自治医大OBの医師が派遣されることになり、5月には着任いただく。加えて、県の医師紹介センターの紹介で、東京で開業医をされていた医師が大町病院に着任していただけることになった。その結果として7人の医師が確保できる運びとなった。

医師の人数が充足したからといって、すぐに病院が良くなるというものではない。病院と患者との信頼関係の確立が一番大切である。医師、看護師、スタッフ一丸となって信頼回復のため頑張る。市内の多くの方々から、大町病院を応援して行こうという動きが高まっている。直すところがあればどんどん言っていただきたい。「大町病院は良くない」という風評に惑わされるのではなく、具体的にどこが悪いという意見もお聞かせいただきたい。具体的に悪いところを指摘していただければ、具体的に直すことができる。大町病院内には投書箱を設置してある。メールでも構わないのでご意見をいただきたい。この4年間、改善に努力してきたが、まだまだ改善するべきことはある、地域医療を守るために努力してまいりたい。

企業誘致にも積極的に取り組んでいる。先日、全国市長会の会合があり、その折に、いくつかの企業にも訪問してきた。大町市には、12万平方メートルの広大な東洋紡跡地があり、企業が工場立地、進出していくための受け皿が整備されていることを説明してきた。リーマンショック後の世界的な不況の中、企業も徐々に立ち直りを見せてきたものの、トヨタ車のリコール問題以降、停滞感が払拭できない状況にあり、企業は新たな投資を控える動きが続いており、国内に新しい工場を開く事は厳しい状況であるといわれている。

企業誘致にも観光客の誘致にも交通網の整備が重要視される。工場の立地条件は高速道路のインターチェンジまでの所要時間が15分以内であることが条件だと言われる。地域高規格道路の開通は、企業誘致、観光客の誘致、また住民の利便性を考えるうえで、最優先の課題である。豊科インター北にジャンクションを作り、直接高速道路につなげる。北へは現在の堤防道路を利用し、信号機のあるところはアンダーパスに改良することや、場所によってはゆずり車線をつけてスムーズに流れるようにする。平成21年から県が調査を開始し、平成24年ころには路線を決定し、用地交渉に入り、平成25年には着工できる計画となる見込み。北は小谷村の雨中地区で調査し、この地区はトンネルをあけバイパスにすることが今年2月に決まった。また期成同盟会の度重なる陳情により、小谷村の改良部分については平成24年度中には完成できることになった。残された課題は白馬村市街地と大町市市街地をどのようなルートにするかという点である。こちらのルートについては、地域の皆さんの意見を反映して計画を立

てるということになっている。

現在、大町市内のルートとしては3つの案が考えられている。

上一までは堤防道路を利用し、そこからは市内西側を通り、大原町から木崎に抜ける。

上橋からは現在のバイパスを使い北上する。

上橋から大町警察署の横を通過し、農具川沿いを通り、木崎に抜ける。

は温泉郷・黒部ダム方面の観光客にはアクセスしやすい。しかし集落、生活圏を分断するし、まちの活性化にはつながらない。

はバイパスを立体交差化にする必要がある。用地を買収する必要はないが、市街地の真ん中に立体交差をつくることは景観が悪くなるというデメリットがある。

は比較的にコンパクトな道路となる。また、市街地を通るため改良は必要となるが、観光客が街中に足をとめることが出来るメリットがある。どの案にも、メリット、デメリットがあり完璧なルート案はない。地域の皆様のご意見をお聞きしながら進めていきたい。白塩町の皆さんにも直接係わり合いが出てくる可能性もあり、建設的なご意見をお寄せいただきたい。

4 懇談

【開始19:30】

出席者

市議会を傍聴したいが、昼間は仕事などで時間が取れない。議会を夕方あるいは休日に開催する方法はないか。

市長回答

市政の参加には、まずは関心を持ってもらうことが必要。議会は市政にとって大事な場であり、議会質疑のキャッチボールを直接見ていただきたい。議会でも改革に着手しており、インターネットによる本会議の同時中継、ACVでも中継をしている。議会の会期や時間は議会の権限で決定し開催している。土日あるいは夜間の開催は、職員の人件費にも影響する。私からお返事はできないが、議会に伝える。

出席者

白塩町でも高齢化がすすんでおり、独居の高齢世帯も30世帯ある。緊急通報システムを利用する世帯も多くなってきている。月々1,000円の利用料がかかるが、負担軽減は図れないものか。また、火災報知器の設置が義務化されたが、独居の高齢世帯では経済的に厳しく、なかなか設置できない世帯が多い。他市では火災報知器設置に対する補助制度があると聞く。大町市でも助成制度があれば導入しやすいのではないだろうか。

市長回答

緊急通報システムでも火災通報が出来る機能がある。利用料の負担軽減する方法については持ち帰り検討させていただく。

火災報知器の設置についても消防法の改正により義務化されている。火災報知器の設置の推進のため、消防団でも1軒1軒まわり、現在では市全体で4割程度の家庭で導入されてい

る。火災から命を守る方法として、普及に努力してまいりたい。3月議会でも助成制度を導入してはどうかとの質問が出た。しかし、既に4割の世帯で導入されており、今後設置する世帯にのみ助成することは不公平だという意見もある。生活弱者救済という観点からは必要な施策かもしれない。即答はできないが持ち帰り検討させていただく。

出席者

いちがいに独居世帯に助成制度をとるわけではない。所得基準を設けるとか、一定の基準は必要だと思う。

市長回答

真に必要な方に手が届くような試みを考えたい。

出席者

東洋紡跡地の利用について、有料介護施設を建設してはどうかと思うがいかがか。

市長回答

東洋紡跡地は4分の3のスペースが残っている。土地そのものは東洋紡所有のもの。共同で企業等を誘致していく計画になっている。工業專業地域の指定を受けているため、工場を建設する場合には計画を実行しやすい。また雇用拡大にも繋がる。地域になじみ易い企業に来ていただくことが優先される。さまざまな有効利用の方法も模索している。太陽光発電の工場を誘致してはどうかとの意見もある。また、高齢者対策のための施設建設に利用してはとの意見もある。しかし、工業施設に隣接して福祉施設を建設することは適切なのかどうか、温泉郷付近のような林間がふさわしいのではないかととの意見もある。

東洋紡跡地には5本の井戸があり、1万トン/日の水量が確保できる。土地の価値だけでなく、豊かな水量も利点である。一日も早く有効利用できる活路を切り開きたい。

出席者

市長さんのご尽力で、大町病院の医師も充足されてきた。また、素晴らしい病院事業管理者にも来ていただき、今後の大町病院に期待がもてる。

ごみ処理施設の建設の問題について、ごみ処理は広域的に建設するよりも、市内に小規模な施設を建設するほうがよいのではないかと思う。環境プラントを見ていると持ち込み者が非常に多く、これを白馬まで持ち込むとなると大変な労力であり、ストックする施設が必要になるのではと懸念される。早期に決着させるべきである。生ごみの処理にはコストがかかる。生ごみを分別し有機肥料にするという計画は効果的である。

以前、テレビで見たが「すぐやる課」というのがある、大町市ではどうか

地域高規格道路は農具川沿いのルートがよいと思う。アルプスが美しく景観がよい。道の駅を作っても効果的だと思う。

竹下内閣時ふるさと創生事業の補助金が交付された。大町市ではどう使いどのような効果

があったのかお聞きしたい。

市長回答

ごみ処理施設については、地元同意が得られずに断念した経過がある。候補地決定への経過が不透明であったということが一番の原因であった。この反省に立って、検討委員会は環境廃棄物対策の専門家、3市村の有識者、公募の委員19人で構成され、すでに5回の検討委員会が開かれている。先般、広報でお知らせしたが、現在、ごみ処理施設の公募を実施している。公募については、一定の要件をクリアした適地を、市民の皆さん、また市町村でも推薦いただく、また検討委員会でもいくつか候補地を提案し、3つの抽出のうちから候補地を絞っていくというシステムになっている。すでに6件の公募があったと聞いている。この候補地を今年の8月を目途に一箇所に絞込み、地元の理解を得たうえで調査し、実現に向けて進めていきたいと考えている。

建設にあたっては、できるだけ小規模に建設する場所を念頭においている。そのためには、ごみの減量化が重要な問題になってくる。市では、ごみの分別収集について、県内でも早くから実施し、仕組みを整えている。これも日頃からの自治会の皆さんのご尽力によるものと考えている。リサイクル方法の評価も高く、昨年は報奨金として300万円をいただいている。さらに分別化を徹底していきたいと考えている。

また、生ごみの堆肥化にも力を入れている。一昨年より小中学校・福祉施設から出る生ごみを回収し、堆肥に加工し、その堆肥を販売するという試みをしている。今後、温泉郷のホテル等、自治会からも協力いただき、輪を広げていきたいと考えている。ごみの減量化は資源の有効利用や地球温暖化の防止につながる。市民の皆さんのご理解のもと取り組んでいきたい、ご協力をいただきたい。

一昨年、朝日村ですぐやる係を設置し話題となった。道路や水路の維持補修等現場対応のセクションであると聞いている。しかし、市の業務では専門性が要求されることが多く、すぐやる課が対応するのではなく、市民の要望に対して、すべての課がすばやく対応できる仕組みを作ることが大切だと考えている。

地域高規格道路を農具川沿いに作るということは、有力な案である。コンパクトでもあり、景観に恵まれている。道の駅を作るということも良いアイデアだと思う。道の駅は市内には美麻にあるが平場にも必要。道の駅では駐車場・トイレは道路管理者が設置し、レストラン・物販施設は民間で運営することになっている。今まで検討された経過もあり、ゆ～ぷる木崎湖や温泉郷などが候補地にあがった。しかし、民間の事業者がまだ手を上げていない状態である。道の駅の効果は、地場産品等の宣伝や観光情報の情報発信ができるということ。何とか実現したいと考えている。

ふるさと創生事業は、市町村の大小に関係なく、それぞれ1億円を地域振興のために交付した事業である。県内の市町村の多くが温泉掘削等に活用していた。大町市では「笑顔と元気あふれるまちづくり基金」を設立し、毎年1,500万円を「笑顔と元気なまちづくり事業補助金」として市民活動支援のために活用してきた。そのため、平成19年度には使い切ってしまう、その後は一般財源で予算措置している。

出席者

農具川は氾濫を繰り返し、長年陳情してきた経過がある。松崎から北へ順次改良していただき、やっと白塩町地籍の部分まで改良が終わり、整備されてきている。右岸は河川公園として整備され、土手が高くなったため軽自動車がやっと通れるくらいで、すれ違いができないような危険な状態になっている。今後、車の乗り入れを規制し、遊歩道として整備をしていただきたいと考えているので、市としてもご支援をお願いしたい。

市長回答

農具川沿いは市民の皆さんの活動により、あやめ、つつじなどの花木が植栽され、見事な景観となっている。改良工事の実施主体は県となっている。仮に遊歩道に整備すると車の乗り入れを規制しなくてはならない。農作業時のみの進入に限定し、それ以外の時期は、花を眺め、散策し、人が憩う場として活用できるように整備してはどうかと思う。地域の皆さんの声をお聞きし、一番良い方法を県につなげていきたい。

出席者

右岸にはもともと道がなく、農作業には影響が出ないということで周辺の耕作者からは了解を得ている。

市長回答

地域の意向が決まったところで県へ繋げたい。昔は農具川で泳いだものだ。今も水が澄み、魚も多く、豊かな流れを保っている。川に親しみやすい整備を考えて行きたいと思う。

出席者

防災無線が非常に、聞き取りにくい。改善をお願いしたい。

市長回答

防災行政無線はアナログからデジタル化へ整備を進めてきた。拡声器もすべて設置しなおし、精度の高い音声を伝えることができるように整備した。しかし、拡声器と拡声器の間であったりすると、両方の音声が干渉し合って聞こえづらいというケースがある。場所を具体的に指摘いただければ微調整に伺う。建物からの跳ね返りにより、デジタル音声も聞き取りにくい場合もある。また、原稿をよみとり合成音声に変換するため聞き取りづらいということも聞いている。イントネーションの改善にも努めている。

出席者

火災等は該当する地域の人に、いち早く、優先的に伝達することが重要である。肝心の地区に肝心なことが聞き取れないのでは意味がない。

市長回答

聞こえづらい原因が音声の干渉である場合は、拡声器の微調整により対応する。火災場所の近くから、順次伝達していくという方法は、システム上可能なのか、持ち帰り検討する。

出席者

下白塩町自治会で火災が起きたとき、まったくわからなかった。離れたところの方から連絡があり、初めてわかった。ケーブルテレビの文字放送で流すことはできないか。

市長回答

今の住宅の構造は防音性が高く、屋外の音声聞き取りづらいというケースもある。そのような場合、宅内の個別受信機の補助制度もあるので、ご利用いただきたい。来年の4月までにケーブルテレビ網を全市的に整備していく。文字放送も技術的には可能であり、複数の情報手段を整備して、使いやすい手段を選択していただきたい。

出席者

街路樹の選定の基準はどうなっているのか。町内の街路樹として大山桜を植えてある区間がある。かなり成長し、根が張り、歩道を持ち上げてしまう、枝も伸び、道路にまではみ出してしまふ。神栄町では「ななかまど」を植えてある、なぜ、この区域だけ、大山桜を植えたのかお聞きしたい。

市長回答

街路樹は道路の景観のため植えてある。見通しが悪くなり、交通事故を誘引してしまうなど安全性に問題がある場合は改良する。道路管理者の判断で改良する。樹種は管理が簡単であること、落ち葉の多いような木は街路樹に向かない。この道路については詳しく承知していないが、大山桜は市のシンボルであり植えたのであると思う。具体的に支障があれば道路管理者にお申し出いただきたい。

出席者

大きくなりすぎて電線まで押し上げてしまい、電線にカバーをつけてある。そこまでして街路樹を植えなければならないのかと思う。

市長回答

周りに配慮して大きくなりすぎないような樹種を選定していくよう担当課にはつなげる。また大きくなることで支障があるのであれば、適正に管理していくように努める。

出席者

大山桜については、当初相生町で植える予定であったが、相生町で断られ白塩町で植えることになったと聞いている。大山桜は歩道の街路樹にむかない。実がなり、歩道を通行する際

に人に落ち、服などにシミがついてしまうことがある。またアメシロがつき易く、消毒も大変である。しかし、時期がくれば美しい花が咲くことで我慢している。

市長回答

当時の経過を担当課に確認し、お答えの必要があれば自治会長さんを通じてお返事させていただきます。

出席者

青少年健全育成のために、「きらり輝く協働のまちづくり事業」の補助を受けて活動している。スポーツの大会を誘致していく上で、市から後援いただきグラウンド使用料等の減免をしているが、それでも運営が厳しい。もう少し負担軽減を図れないか。

もう一点、東洋紡跡地のグラウンドを使用できないかと東洋紡本社に交渉した経過がある。工場誘致が決まるまでは、使用していただいても良いという返事をいただいている。敷地もグラウンド側に工場を建設した方が立地にも良いという意見もある。工場誘致が決まれば、お返ししなければならないことは承知している。現在、源汲球場を使用させていただいているが、市としても応援いただきたい。

サポートセンターに足を運んだ、市民活動や自治会のサポートをするセクションだと聞いた。白塩町も自治会活動を盛んに行っているので支援をお願いしたい。

市長回答

スポーツ指導をいただいております。全国大会等を誘致していただくと、子供ばかりか親も多く参加し、温泉郷などの宿泊施設も潤う。グラウンド使用料をお支払いいただいているが公の施設のためもともと比較的安い。市の後援事業のため使用料は半額に減額している。市が主催する場合、使用料は無料だが、後援事業のため減免率は一番大きい。例外というわけにはいかないが、教育委員会にご相談いただきたい。源汲のグラウンドをきれいに管理して使用していただいている。東洋紡のグラウンドについては、工場の立地条件としてはグラウンド側の方が利用しやすいといわれている。グラウンドとして整備しても、工場建設が決まれば、すぐに明け渡さなければならない。

サポートセンターは自治会のサポートも行う。自治会の皆さんも気軽にお立ち寄りいただきたい。

出席者

都市計画道路の見直しについて以前説明があったが、その後どのように進んでいるのかお聞きしたい。

市長回答

昨年からは都市計画道路の見直しについて、関係地区に説明に上がっている。従来の計画では実情にそぐわない部分等が生じ、これを見直し是正していく計画案を県に上げている段階で

ある。決定次第広報等でお知らせする

出席者

説明会の折、白塩町に関する見直し案として、3つの案の説明があったが、3案のうちどれにするかという説明はなされていなかった。見通しやいつごろ決まるのか、その時期についてもお知らせいただきたい。

市長回答

その件については調査し、見通しや進捗状況についてもお知らせする。

5 市長からお礼のあいさつ

今日は市政の課題等を説明させていただいた。みんなで市を良くするという気持ちにこれからの市への活路があるのではないかと思う。財政資金の豊かな時代には、財政力で解決できたことが、今は、皆様のご意見をお聞きしながら、優先順位をつけて解決していかななくてはならない状況になっている。思いついたことがあれば手紙やメールでもかまわないので、遠慮なく建設的なご意見をお寄せいただきたい。

「市長への手紙」をいただいた場合は、まずコピーをとり担当する課に渡し、同時に私も読み内容を検討し、対処すべきことを指示し、回答を担当課において作成する。その回答案を私が目を通し、指示したことが反映されているのか担当課と調整しながら、最終的に私の考え方と担当課の考え方が同じになったところで、成案としサインをしてお返事を出すことになっている。返事の内容はご要望に添えないこともあるが、誠意を持ってお答えする。これからも市政に対する叱咤激励をお願いしたい。

6 閉会

【20:55終了】